



おしえの花束

雲晴

「雲晴」第八号

平成二十五年九月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六一五
電話 (03) 362-7134
FAX (03) 569-9159

— 到 彼岸 —

仏教では、わたしたち凡夫は迷いの世界にいる、と考えています。そして、川の向こうにほとけの世界、悟りの世界があるとされています。わたしたちのいる迷いの世界が「此岸しがん」、川の向こうのほとけの世界が「彼岸」です。わたしたちは川を渡って、その彼岸に到達せねばなりません。それが仏教の目的です。

したがって、お彼岸というのは、じつは「到彼岸」のことで悟り彼岸（ほとけの世界）に到達することにあります。

では、わたしたちは簡単に、その悟りの彼岸に到達ができるのでしょうか？ 答えは「ノー」です。そう簡単に彼岸には到達できません。いや、わたしたちが一生かかっても、彼岸に到達できそうにありません。

ですから、到彼岸（お彼岸）とは、「永遠に到達することのない到達」です。わたしたちは彼岸、すなわちほとけの国に向かって、ひたすらに歩み続けねばなりません。

きょう彼岸菩提の種を蒔く日かな

そんな句があります。「菩提」というのは「悟り」のことです。迷いの此岸から悟りの彼岸に渡るための功德を、この日から積みはじめるわけです。つまりお彼岸は、菩提の種まきをする日なのです。

ところで、お彼岸に種まきをしますが、種をまいただけで、あとは放りっぱなしではいけません。毎日せつせと水をかけてやり、肥料も追加しないといけないのです。

仏道修行には、たゆまぬ努力がいらいます。それから、雑草抜きも大変です。雑草というのは、私達の心にある煩惱です。雑草は抜けども抜けども、また生えます。だから、わたしたちは怠ってはならないのです。

春と秋の年二回のお彼岸の日は、ふと足をとめて、遠い彼方のほとけの世界を思い浮かべる日だと思います。すでにほとけの世界におられるご先祖さまを偲ぶ日なのです。

暑い夏もようやくあと少しになりました。去る八月十五日は御存じの通り、月遅れのお盆の日であると同時に終戦記念日でもあります。

今年、私は鹿児島県の知覧特攻平和会館と沖繩

県のみめぐり
平和祈念資料

温故知新

宗慶寺住職 本多宗敬

館に初めてお参りに行きました。特攻隊の事、沖繩戦の事知っているつもりでいましたが、知らないことだらけでした。生々しい写真や手記などを見て、戦争がいかに悲惨なもの

であるか、平和な現代の日本の陰にいかにも多くの犠牲があったのかという事を再認識しました。
中国の孔子の言葉に有名な「温故知新(故を温めて新しきを知る)」という

が行ってしまいます。しかし、ご先祖様を始めとした様々な過去があるから、私達は今このように存在する事ができるので、過去を振りかえり、感謝するとともに、過去から教訓を得て、それを活かす



新泉

落語の世界を訪ねて



「こんにちは。狸大工の熊五郎さんかい俺は左官屋の金太郎というもんだが、お前さん柳原で財布を落としたらう」

かに受け取った。ありがとうよ、しかし金はおまえのもんだ持つてつてくれ。」

「めんどくさい奴だな。お前の財布から出てきた金だよ。うけとれよ。」
「江戸っ子がそんなわけのわからない金を受け取れるかい、持つていかねえと殴るぞ。」
『財布を拾ってやって、殴られるなんて初めてだ。やれるもんならやってみる。』

「柳原か、そこで落としたとわかっていたらとつてに拾いに行つてら。」

「印行と書付は確かに俺の名前も書いてあるが、金には名前も書いてない。」

「おのぞみなら。」
『この野郎本当に殴りやがった。』
『ちよつと待ったこは大家である私の出番だ。熊さんなんだい、ないてい

「印形と書付けは大切なもんだから確

いなければ受け取れ。」

るのかい。』

一口法話



人の美点を見つけよう

ある大学の先生が、卒業生から手紙をもらい、それに「先生の靴はいつも綺麗でした。いったい誰が磨くのですか」と書いてありました。この先生は女性の独身の先生でしたので、自分でいつも靴を磨いており、「靴が綺麗でした」という言葉は、全く思いがけないものだったのです。ところが、この先生はそれからはいつも靴が気になって生徒の前に立つ時、授業を始める時、まず最初に靴が綺麗かどうかを確かめずにおれなくなつたのです。

私たちも、周囲から「あの人はいつもやさしい、ほんとうによい人だ」とか、「いつ見ても身だしなみの綺麗な人だ」といわれると、いつものようにしよう、しなくてはならないという気持ちになりませんか。人の期待に応えたい、よい評判を裏切るまいという心がおきてきます。そのように努力精進することで、益々その人が良くなつていくのです。

何も人の評判を気にしなさい、よく思われさえすればよい、というのでは

鎌倉時代以前の諸宗派

一 真言宗 ②

真言宗の寺院

先号で説明したように真言宗は多くの分派に分かれました。まず十三世紀末に古義真言宗と新義真言宗に分かれ、更にそこから多種多様な派に展開して現在では約五〇の宗派に分かれています。その中で、十六派の十八の総大本山によって、昭和三十三年に、真言宗各派総大本山会（各山会）が設立され、様々な事業を共同で行っています。今号ではその十八の総大本山を紹介しします。

（順不同）

金剛峯寺（和歌山・高野町）——高野山真言宗総本山

東寺（京都・南区）——東寺真言宗総本山

善通寺（香川・善通寺市）——真言宗善通寺派総本山

隋心院（京都・山科区）——真言宗善通寺派大本山

醍醐寺（京都・伏見区）——真言宗醍醐派総本山

仁和寺（京都・右京区）——真言宗御室派総本山

『宵越しの金など持ったことのない、江戸っ子の熊五郎が手にした三両。落としてよかったと思っているところへ届に来るとはこんな辛いことはない、これが泣かずにいらりようか。』

大岡越前の守にお裁きを頼みました。ここに三両の金をどうするか、越前が一両を出し、熊五郎と金太郎に二両ずつさげわたした。

「この裁きを三方一両損と名付ける。」
「大岡クワネえ」
熊五郎は金太郎の持ってきた三両を全

部受け取れば三両手に入るところ、二両しか手に入らず、金太郎もそのまま受け取れば三両手に入る所、二両しか入らず、越前は懐から一両出て行った。江戸っ子はこうでなくてはいかん、腹が減ったであろう臍部を取らせよ、おいおいから空腹じゃと言ってそんなにかきこむでない、どれだけ食べるつもりだ」



ありません。普段のちよつとした言葉や行いが、やがて人と人との大切な信頼関係をつくることになるのです。

「あなたはとっても良い子よ」と子どもを信じてほめてあげることが、親にとつてはまず大切なことです。「信頼されているんだ」という自覚ができてはじめて、子どもは、もつともつと信頼されたい、よい子になるという気持ちがおこるのです。人から信頼されたかったら、まずこちらのほうから相手信頼してあげましょう。

（総本山知恩院布教師会のホームページより）

大覚寺（京都・右京区）——真言宗大覚寺派大本山

泉涌寺（京都・東山区）——真言宗泉涌寺派総本山

勸修寺（京都市・山科区）——真言宗山階派大本山

朝護孫子寺（奈良・平群町）——信貴山真言宗総本山

中山寺（兵庫・宝塚市）——真言宗中山寺派大本山

清澄寺（兵庫・宝塚市）——真言三宗宗大本山

須磨寺（兵庫・神戸市）——真言宗須磨寺派大本山

智積院（京都・東山区）——真言宗智山派総本山

長谷寺（奈良・桜井市）——真言宗豊山派総本山

根来寺（和歌山・岩出市）——新義真言宗総本山

西大寺（奈良・奈良市）——真言律宗総本山

宝山寺（奈良・生駒市）——真言律宗大本山

以上二回にわたって真言宗を御紹介しました。また数年にわたって日本仏教の諸宗派を、紹介してきましたが、今回が最終回です。

秋の彼岸法要のご案内

秋の彼岸法要は次のとおり行いますので、お参りください。

九月二十三日(月) 正午より

彼岸法要は、中日の正午に先祖代々のご回向を致します。塔婆をご希望の方は、電話・ファックス・メール等にて寺までお申し込みください。

塔婆料 三千元
回向料 志納

いわき市の仮設住宅を慰問

(第三回)

六月十四日に仏教情報センターの有志と共いわき市にある仮設住宅への慰問を行いました。

今回は現地の社会福祉協議会からの希望により、初めての地区を二ヶ所慰問してきました。

どこの仮設住宅でも共通していることは震災から二年余が経ち、自分たちのことは忘れられてしまったのではないかと、という思いが日に日に強くなってきていることです。いつまで経っても変わらない現状と将来が見えない不

安は強まるばかりです。

訪問するたびに現地の方々から色々な話を聞くことができ、毎回新しい発見があります。今回特に考えさせられたことは、仮設住宅の住民と受け入れをしている現地の住民とのあつれきが生じているという事でした。

現在いわき市には避難者が約二万四千人、原発作業関係の人たちを併せる約三万人が存在しています。

この急激な人口増加に市のインフラが追いつかず、病院の混雑保育所への入所待機などが生じています。またゴミの増加や一部避難住民の交通

マナーの悪さなども問題となっているようです。

当初は避難者に対して同情的だったいわき市民も、自分たちの生活に様々な影響が出てくると複雑な感情が込み上げてきているようです。

お互いの言い分はあるでしょうが人間のエゴを見せられたような気がします。今後はこのような新たなストレスに向き合い支援を続けていきたいと思っています。



「先ず体操をして気分をリラックス」

「菽水清秀書展」の御案内

今年も「菽水清秀書展」が左記のとおり開催されます。書道に興味をお持ちの方は、無料ですのでどうぞご来場ください。

日時 十月二十九日(火)～

十一月 三日(日)

十一時～十八時

(最終日は十七時閉会)

場所 「東京銀座画廊・美術館」

中央区銀座二一七―十八

銀座貿易ビル八階

TEL 03-3564-1644

◇浄土宗一口メモ◇

「浄土宗の本山について⑥」

「清浄華院」

京都市上京区にあり、近くには京都御所や京都大学などがあります。

もとは平安時代に天台宗の慈覚大師円仁により建立された寺ですが、その後、法然上人の教えに感動された後白河法皇が法然上人に賜りました。これを機に清浄華院は浄土宗に改められ、以後念仏道場としての道を歩むことになりました。このため清浄華院では慈覚大師を創立開山、法然上人を改宗開山として仰いでいます。

現在の御法主第八十二世真野龍海台下と第八十世故大田秀三台下は共に先代銅洞と深い親交がありました。

そのようなご縁から、境内にある

「介護老人福祉施設つきかげ苑」の一階多目的ホールには、先代より寄贈された作品が展示されています。

(貞林院瑞正寺)